

0.9mm が違いを生みます!

#LSSA [엘싸]

臨床ガイド

背中

ニューポン

[ホームページ](#)

ニューポンは健康で美しい生活の波を起こすことです。

2021.09.15

V1.0

コンテンツ

01 LSSA - 背中

- キーワード
- 解剖学

02 手順

- デザイン
- 切開
- 潜入
- LSSAの彫刻
- 願望

03 ヒント

- 要点
- 質疑応答
- 準備
- アフターケア

04 B&A

- 背中&側面

01 LSSA - 背中

背中の中の脂肪彫刻

背中には脂肪吸引のための3つのエリアがあります。背中上部、背中下部、脇の下（ブララインエリア）

そして背中はその他の部位よりも特に厚く（通常の2倍）、繊維組織が多くあります。そのため、痛みや出血がひどく、表面的な部位の治療は本当に困難です。

しかし、LSSAはバブル効果により表面領域を簡単に処理でき、痛みや出血を軽減できるため、この領域で最も有用です（ユニーク）。

さらに、真皮部分のダメージを軽減し、手術後の弾力性を高めるのに役立ちます。



01 LSSA - 背中

腕-キーワード

より簡単に

最小限のダメージで表層部（真皮部）に簡単にアプローチ
繊維質の領域に最も有効です。

より安全

痛みが大幅に軽減され、局所麻酔が可能になります。
真皮部分のダメージを最小限に抑えることで出血も少なくなります。

もっと早く

あざや腫れが少なくなり、回復が早くなります。
真皮へのダメージが少なくなり、肌の引き締め効果が高まる
迅速な回復

01 LSSA - 背中

背中 - 解剖学

背中では他の部位に比べて皮膚が厚く脂肪が薄く、繊維組織がしっかりしています。細い血管が多いため、他の部位に比べて出血が多くなります。

背中上部背中

背中の上部の脂肪がロールのように見えるのは、表面の脂肪と筋膜が互いにつながっているためです。

スリムなラインを実現するために、後腋窩脂肪を十分に吸引する必要があります。

肩甲骨下背部線維組

繊維組織のため、脂肪が巻き込まれます

丸まったシワは少なくとも6か月後には消えます。

腰部

吸引はヒップとウエストラインを一緒に行う場合があります。LSSAの乳化後、痛みを軽減するために乳化した脂肪は負圧のみで吸引されます。



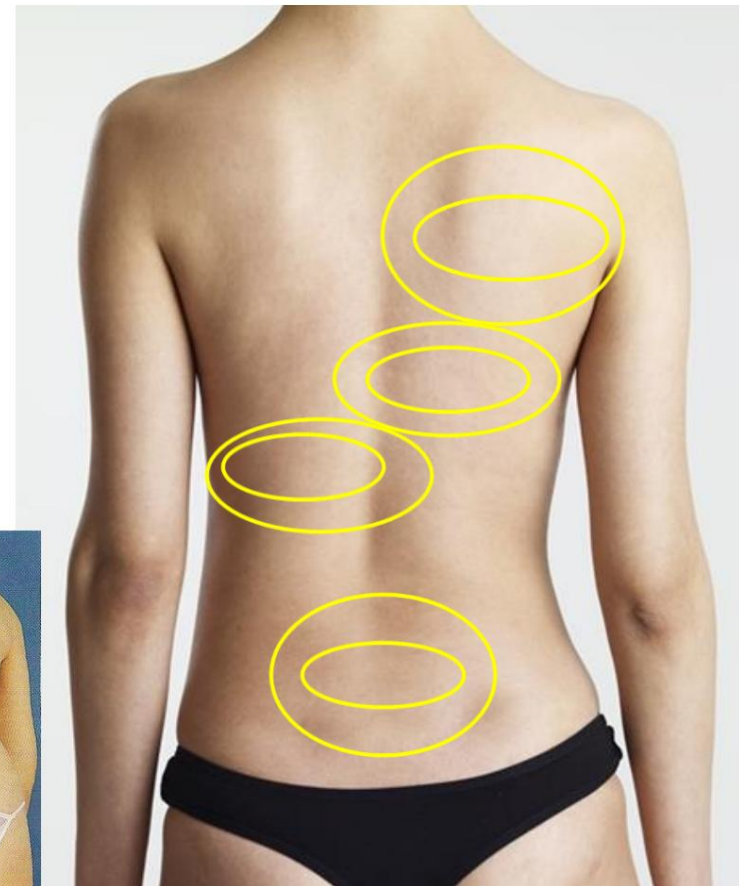
背中 - デザイン

脂肪をチェックし、腕をぶら下げた前屈みの姿勢でデザインします。(図1)

背中の上部はブララインから他の部分までです。

カニューレを安全に動かすために、対象部分よりも広く設計されています。

ウエストラインと腰回りはSラインに十分配慮する



02手順 - 背中

背中 - 切開

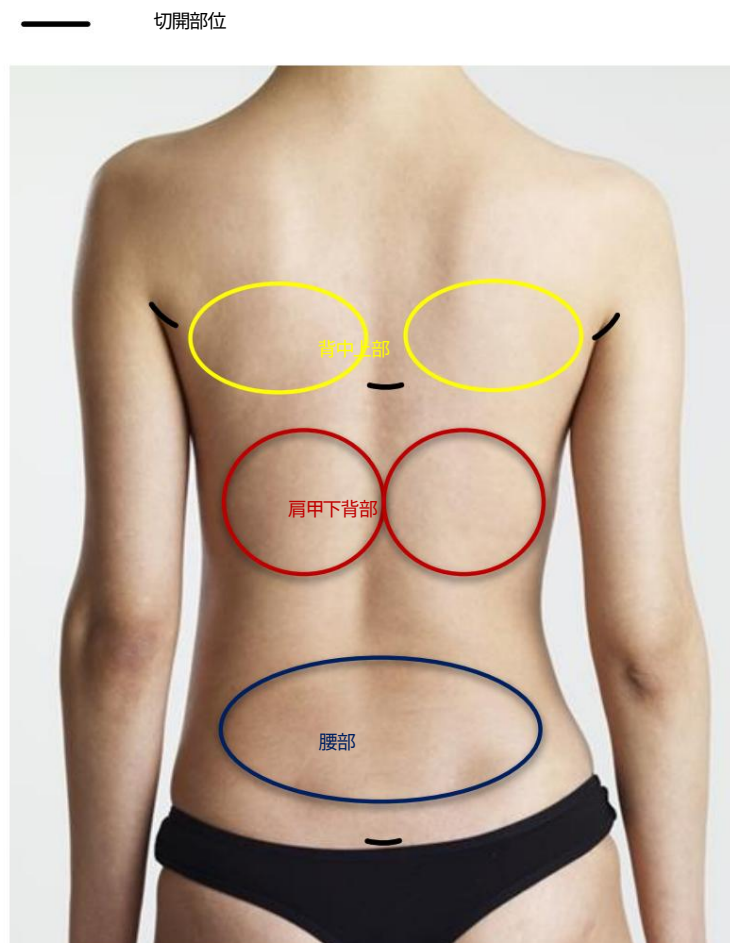
背中上部の脇の下の後ろ部分を切開します。

背中部分は凸の位置を保つのが難しいので、プロテクターを使用することもあります
(図2)

腰の場合はヒップ (パンティライン) に切開を入れます



図2 プロテクター



02手順 - 背中

背中 - 侵入

表層から中層にかけて浸透します。

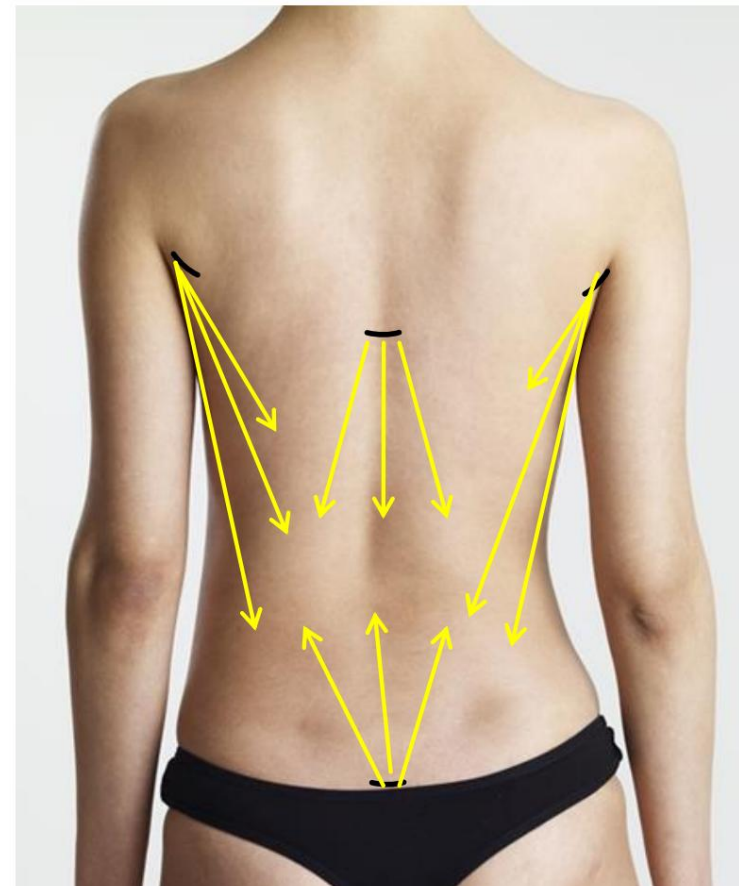
背中 of 皮膚は非常に厚いため、表層を制御するのは非常に困難です。

ガイドハンドを正しく使用してください。

背中 of 上部の主な部分はブラジャーのラインになります。

腰部の場合、ウエストラインも一緒に浸透させる必要があります。

ストロークしやすいように、患者の凸型形状を維持します。



02手順 - 背中

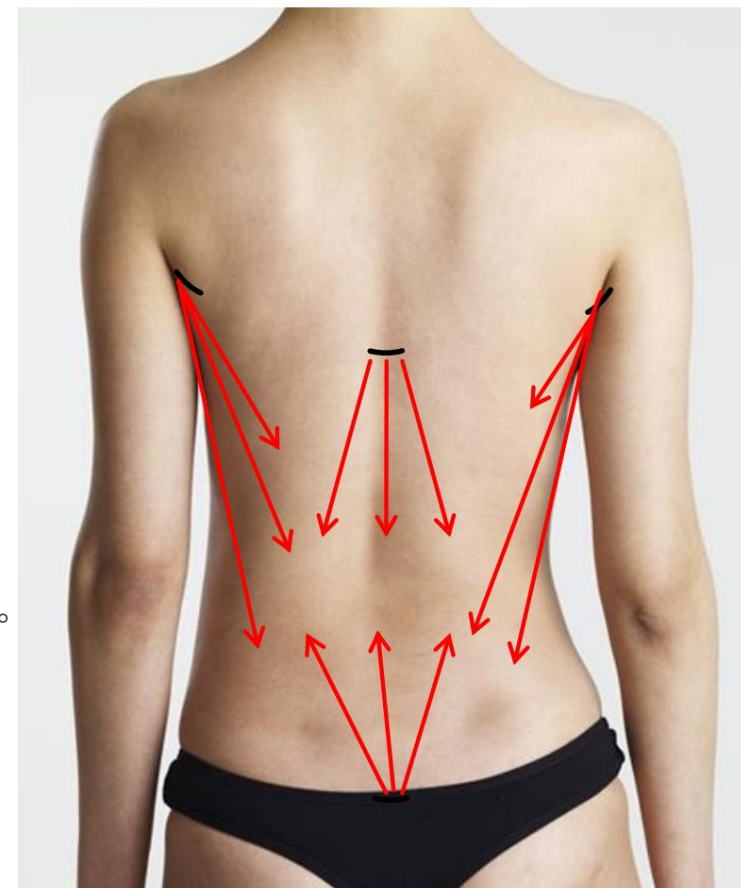
背中 - LSSA 彫刻

表層から中層へのストローク

プローブの動きに合わせて患者の凸型を維持します。

切開部位を湿らせた状態に保ちます。湿らせたガーゼや生理食塩水を塗ります。

エンドポイントは、プローブの動きに抵抗がなくなるまで、または腫脹溶液 100cc あたり 2 分です。



皮膚が薄いため、腰より上の脊柱の皮膚壊死に注意する

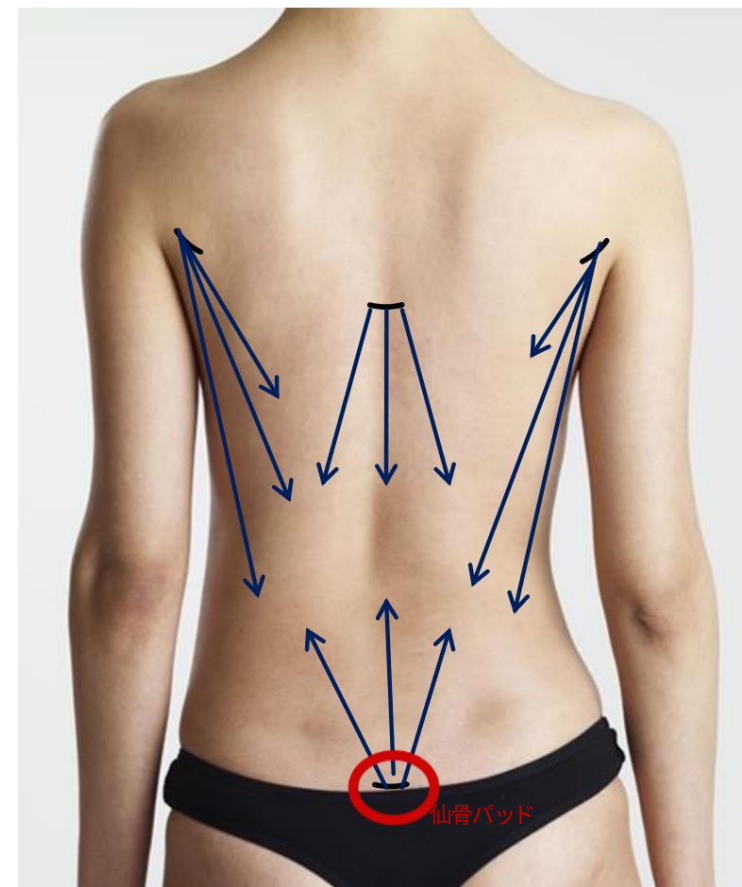
背中 - 願望

表層を吸引します。

皮膚が薄いため、腰より上の脊柱の皮膚壊死に注意する

満足のためには表層を吸引する必要があります。

最良の結果を得るためには、吸引中に多少の出血は避けられません。



背中 - 要点

腕をぶら下げた前屈みの姿勢で脂肪とデザインをチェックする

皮膚が薄いため、腰より上の脊柱の皮膚壊死に注意する

切開部位は後腋窩襞または後腸骨襞になります

ストークウェイ : 皮膚の浸透を保護するための凸凹

背中の上部と下部を均等に吸引する必要があります

ウエストラインはSラインに十分吸引する必要があります

背中 - Q&A

Q: 背中に注入する腫脹液の量はどのくらいですか？

A: 患者様によりませんが、腰回りを含め背中全体で1500～2000cc必要となります。
表面浸潤により痛みと出血を軽減できます。

Q: 出血や痛みはどうですか？

A: LSSAは局所麻酔が可能な程度に痛みと出血を軽減します。

Q: 時間を使った LSSA はどうですか？

A: LSSA プローブのストロークの抵抗がなくなるまで、特に背中では皮膚が厚く繊維質が多いため、背中の領域は他の身体部位よりも時間がかかります。(背中の場合は 30 分)

Q: 最も効率的な結果を得るにはどうすればよいですか？

A: 効果を出すためには表層処理が最も重要です。

LSSA は火傷や副作用の大きな懸念を解消するため、積極的なストロークが必要になります。

背中 - 準備

commons	浸潤	願望
腫れの解決策	2.0mm x 25cm 浸潤カニューレとハンドル	2.5mm吸引カニューレとハンドル
縫合糸セットとNo.11ブレード	50ccシリンジ (ルアーロック)	3.0mm吸引カニューレとハンドル
26G針	50ccシリンジ (浣腸用シリンジ)	4.0mm吸引カニューレとハンドル
4 x 4 ガーゼ	浸透ポンプ (ホースとハンドル)	吸引ポンプホースとハンドル
3Φ、4Φスキンプロテクター		
10cc、20cc ルアーロックシリンジ		
消毒剤とドレープ		

背中 – アフターケア

手術後すぐに弾性バンドを使用してください。

ドレーンは非常に重要です。(大きな吸引の場合には遅延縫合が使用されることがあります)

約1週間後、縫合糸を抜くことができます。

手術後1週間後、5～6週間はリンパ循環のためのマッサージを行ってください。

(より早い回復のために、エンダモロジー、RF、外部超音波などのボディケア機器を使用できます。)

手術後は十分な水分を摂取してください。

浮腫を軽減するために、手術後は簡単な散歩や運動を推奨します。

背中と側面



Before

After

LSSA Ø2.9 連続モード 3Lv

写真提供 :JK 美容整形外科

ありがとうございます。